

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和元年10月30日（水）

2 確認箇所

- ・メガフロート（1～4号機取水路開渠（海側遮水壁近傍））
- ・1／2号機共用排気筒（1／2号機開閉所前から確認）

3 確認項目

- （1）メガフロート除染作業の進捗状況
- （2）1／2号機共用排気筒解体工事の状況

4 確認結果の概要

（1）メガフロート除染作業の進捗状況について

東日本大震災により発生した5・6号機建屋滞留水を一時的に貯留するために活用されたメガフロートについては、今後、津波が発生した際に漂流し周辺設備を損傷させるリスクがあることから、1～4号機取水路開渠内に着底させて護岸及び物揚場として活用される計画となっている。

現在、メガフロートは1～4号機取水路開渠の南側に係留されており（図1、写真1）、メガフロートを着底させるためのマウンド造成工事やメガフロート内のバラスト水（ろ過水）移送作業及びメガフロート内部の除染作業などが行われている。

これまで、海側遮水壁防衝盛土工事、メガフロート移設作業、着底マウンド造成工事及びバラスト水移送作業等の状況を確認してきているが、今回は、除染作業の進捗状況を確認した。

- ・東京電力によると、メガフロート内部の除染作業は今年7月から開始され、全9区画中、3区画の除染が完了し、現在、4区画目の除染作業を行っているとのことであった。
- ・また、メガフロート内部の除染は、バラスト水を用いた水圧洗浄により行っており、水圧洗浄後にポンプ等でスラッジや洗浄水を回収し、その後、床面、壁及び天井の表面汚染を測定し、表面汚染密度が判定基準（ $4\text{Bq}/\text{cm}^2$ ）を下回っていることを確認しているとのことであった。
- ・現地確認時には、除染が終了した箇所の表面汚染測定を行っていた。

（写真2）

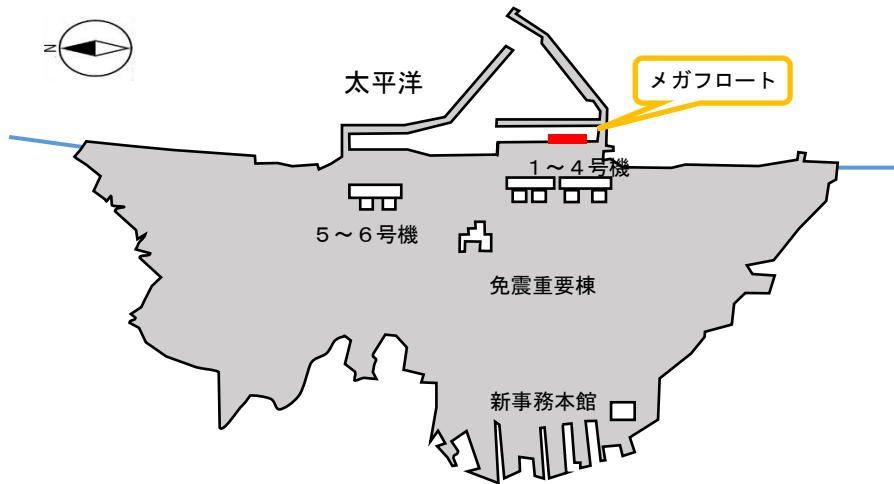


図1 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1)
メガフロート外観
(波除堤中央部から撮影)



(写真2-1)
メガフロート内部で除染が終了した
箇所例



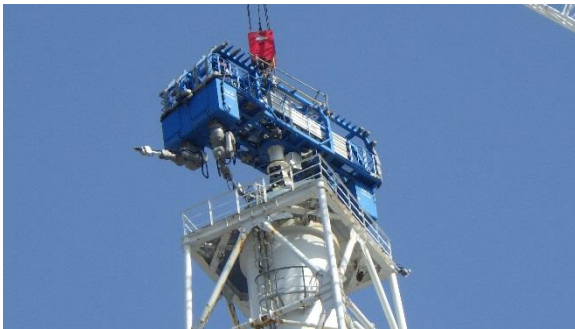
(写真2-2)
除染終了後の表面汚染測定状況

(2) 1 / 2号機共用排気筒解体工事の状況について

1 / 2号機共用排気筒の4ブロック目の解体作業は、10月27日の作業の中で電線管を切断する際に把持するクランプ（落下防止金具）が、筒身解体装置の6軸アームの油圧ハンドから外れて落下する事象があり、再発防止対策のために、電線管等の付属品の切断作業を中断していたが、本日（10月30日）から作業が再開されたことから、作業の進捗状況を確認した。

なお、東京電力によると、再発防止対策として、6軸アーム油圧ハンドとクランプ（落下防止金具）の把持方法の改良や作業手順の見直しなどを実施したとのことであった。

- ・現地確認時は、筒身解体装置が筒身頂部に設置されていたが、付属品の切断作業を行っている様子にはなかった。（写真3）
- ・東京電力に確認したところ、電線管クランプ（落下防止金具）の設置は完了したが、風が強いため作業を一時中断しているとのことであった。その後、14時頃に作業は再開された。



(写真3)

筒身解体装置の状況(11時45分頃)
(1 / 2号機開閉所前から撮影)

5 プラント関連パラメータ確認

各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。